

知事記者会見の概要

日 時：令和7年9月10日（水） 10:00～10:37

場 所：502会議室

出席記者：11名、テレビカメラ4台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) モンゴル国訪問の実施結果について

代表質問

- (1) モンゴル国訪問を終えての所感と将来的な関係構築について

フリー質問

- (1) 山形地方最低賃金審議会の答申について
- (2) さくらんぼの収穫量見込みについて
- (3) アランマーレ山形の県外移転について
- (4) 原田和広氏の繰り上げ当選について
- (5) 石破首相の辞任表明について

<幹事社：毎日・産経・YBC>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。朝夕、涼しくなってきました。ですが、日中はまだまだ気温が上がる日があります。ということですので、県民の皆様には、くれぐれも熱中症にならないようご注意くださいと思います。

さて、天童市出身の中野拓夢選手が所属する阪神タイガースが2年ぶりにセ・リーグ優勝を果たしました。この度の優勝はリーグ史上最速と伺っております。誠におめでとうございます。

中野選手は今シーズン、選手会長として1年を通して大活躍をされ、優勝に大きく貢献されました。

今後、日本一に向けて、更なる活躍を県民とともに期待しております。

それから、主な秋祭りについてです。9月に入り、虫の音色も聞こえ、朝夕は涼しさを感じるようになりました。

例年にも増して暑かった今年の夏であります、県内の夏祭りや花火大会などでは、県内外から多くの方々が賑わったようであります。

これから県内では、実りの秋ならではの旬の味覚が楽しめるイベントや、伝統的なお祭りなどが各地で開催されます。

いくつかご紹介しますと、9月14日に山形の秋の風物詩である「日本一の芋煮会フェスティバル」、そしてアユの名産地である舟形町と白鷹町では、13日・14日に「ふながた若鮎まつり」、また20日・21日に「白鷹鮎まつり」が開催されます。

また、12～15日には、寒河江八幡宮の例大祭として歴史と伝統のある「寒河江まつり」、27・28日には、米沢市で「なせばなる秋まつり」、10月5日・6日には、140年以上の歴史がある鶴岡市の「荘内大祭」、10月3日から11月5日にかけては、全国一の歴史と技を誇る「南陽の菊まつり」など、文化の秋にふさわしいイベントが県内各地で開催されます。

さらに、県内各地のそば処で「新そばまつり」の開催が予定されるなど、数多くのお祭りやイベントが秋を彩ります。

前回の記者会見で発表しましたが、現在県では、宿泊キャンペーンとして「フルーツ王国山形へ行こう！秋旅キャンペーン」を実施しております。県民の皆様も対象になっておりますし、(1人1泊あたり)3,000円引きという割引ということでございます。ぜひ多くの方々に各地のお祭りやイベントに足をお運びいただき、フルーツをはじめ、山形の秋を存分に楽しんでいただければというふうに思っております。

☆発表事項

知事

私から発表が1点ございます。

モンゴル国訪問の実施結果について申し上げます。先週、9月2日から5日までの4日間の日程で、山形大学及び経済団体の代表、企業関係者とともにモンゴル国のウランバートル市を訪問してまいりました。

今回の訪問では、新モンゴル学園と山形県、山形大学の三者で、生徒・学生の交流促進を通して人材育成に取り組むことを目的とする協力覚書を締結いたしました。

本県が留学生の受入拡大等に関して海外の教育機関と協力覚書を締結したのは、今回が初めてとなります。

新モンゴル学園は、日本語教育に力を入れており、日本へ多くの学生が留学しています。同学園では、本県にゆかりもあることから、今回の協力覚書の締結を契機として、本県への留学生の増加につながることを期待しているところであります。

また、今年の夏に県内企業で行われたモンゴル人の大学生によるインターンシップの報告会を行いました。参加した学生の資質が高く、受入企業からも「企業の成長に貢献できる人材となり得る」と評価されているところであります。この度は県内企業の皆様も一緒に訪問しましたので、今回のインターンシップ受入れを足掛かりとして、モンゴルの優秀な若者と本県産業界の交流が進み、本県の産業を担う人材として就職・定着していただけるよう取り組んでまいりたいと考えております。

さらに、モンゴル観光協会や現地旅行会社を訪問し、本県の観光PRをするとともに意見交換を実施してまいりました。また、新モンゴル学園のトゴス理事長など6名の方に「やまがた特命観光・つや姫大使」を委嘱してまいりました。今後、本県の魅力発信にお力添えをいただけるものと考えております。

加えまして、戦後80年の節目にあたりますので、抑留により現地で亡くなられた県内関係者を、県民を代表して慰霊してまいりました。現地では、二千人の日本人が亡くなられたと聞いておりますし、そのうち40名の方が、山形出身者だというふうに聞いております。遺族会の皆様の御意向の花束も一緒に捧げてまいりました。

県としましては、この度のモンゴル国訪問を契機として、モンゴルからの留学生や高度人材の受入拡大に向けた取組みを加速させるとともに、この度の訪問で得られたネットワークを活かして、経済交流・観光交流の拡大につなげてまいりたいと考えております。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

おはようございます。幹事社の産経新聞です。

モンゴルについてなんですけれども、今回のモンゴル訪問を終えてですね、知事の所感を

お伺いしたいということとですね、今回の訪問を契機として、将来的に文化面、経済面、観光面、どのような関わりを構築できるのか、知事の考えをお聞かせください

知事

はい。ではお答えいたします。

モンゴル国は、面積が日本の約4倍ございまして、総人口は約345万人、国民の平均年齢が28.4歳となっております。人口は増えているということでありまして、大学進学率も高く、留学や海外での就労を希望する人も多いと伺っております。

また、近年、モンゴル国は経済成長が著しく、訪問時ですね、活気というものを感じてまいりました。

こうしたモンゴルの活力や、若く優秀な人材の可能性などに着目し、モンゴル国にアプローチしている日本の自治体も多くあるとお聞きをしているところであります。現地の大使館でお聞きしましたが、もうすでに二十数県がトライしているということがございます。

このような中で、本県と新モンゴル学園との交流を更に深めるべく、今回の訪問において協力覚書を締結したことは、本県とモンゴル国の今後の発展に向けて大変意義があるものにとらえております。

新モンゴル学園を訪問した際、生徒の皆さんが熱心に日本語学習に取り組まれておりました。若い世代の皆さんが、こうした学びを通して互いの国に対する関心を高め、交流していくことは、両国の友好親善につながっていくものと思います。

また、この度の訪問では、教育科学大臣をはじめ、モンゴル国の教育や経済分野で活躍されている方々とお会いをしまして、意見交換を行ってきたところです。人的なネットワークの構築にもつながったと考えております。

これまでも、新モンゴル学園出身の留学生が、県内の小学校で馬頭琴コンサートを開催するなど、互いの文化に触れながら理解を深める交流を行ってまいりました。

協力覚書の締結を受け、新モンゴル学園と県内の小・中・高校の生徒や学生との交流などにおきまして、積極的に両国の文化を取り上げながら、文化交流拡大につなげてまいりたいと考えております。

また、経済面につきましては、本県への留学を促進し、将来的にはモンゴルの若手人材が本県内で就職・定着してもらえるよう、現地関係者との関係づくりや、県内での就職に向けた意見交換会や就職セミナーの開催などを通してモンゴルの若手人材と本県産業界との交流機会づくりも進めてまいりたいと考えております。

県としましては、将来的には、本県とモンゴル国との交流が文化や観光など様々な面で発展していくよう、まずは人的交流の拡大に向けて、積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

記者

関連してですね、本県は第一次産業で圧倒的な強みがあるのですけれども、現在例えば、「つや姫」なり、お米ですね、さくらんぼとかは、モンゴルのほうに輸出等はしているのでしょうか。また、将来的に輸出等をする準備があるのかどうか、その辺をちょっとお聞かせ願いたいです。

知事

はい、現時点で私が把握しているところでは、輸出はしていないというふうに思います。現地でスーパーなどもちょっと見てまいりましたけれども、市場調査ですね。新潟県のお米が入っておいりましたが、他のは入っていなかったというふうに。一つのスーパーではありますけれども、そのような状況でありました。

お酒もですね、日本酒、どこの県も並んでいなかった。「チョーヤ」というところのお酒、梅酒とかお酒とか並んでいたんですけど、そういった状況で、まだまだ伸びしろはいっぱいあるなというふうに思いました。

どういうふうにして輸出していけるかというのはですね、様々なことがございますので、調査をしながら、情報収集をしながら将来的にはやはり、いろいろな経済交流に繋がるようにしていければというふうに思っております。

☆フリー質問

記者

朝日新聞、斎藤です。おはようございます。

私から2点伺いたいと思うのですが、まず最低賃金についてなのですが、今月3日に山形地方最低賃金審議会が答申を出しました。現行より77円引き上げの、1,032円という、山形としては初めての一千円台というふうな、大きな賃上げというふうになりました。都市部との賃金格差で人口が流出するというふうな観点から、山形県としましても、最低賃金の引き上げということを望ましいというふうな見解を再三出していらしたと思うのですが、今回のこの1,032円への引き上げについて、知事のお考えを伺いたいと思います。

知事

はい。今年度の最低賃金の改正につきましては、厚労省の諮問機関である中央最低賃金審議会が示した目安額、64円の引き上げを参考にしながら、本県の実態などを踏まえ、十分に審議された結果答申されたものと考えております。

本県の最低賃金が、今、記者さんおっしゃいましたけれども、目安額を13円上回って、過去最大となる77円を引き上げて、1,032円の答申となったことは、物価高が続いていることや今年の春闘での大幅な賃上げなどを考慮したものであると認識をしております。

また、本県を含む39道府県が目安額を上回りました。最低賃金が初めて全都道府県で1,000

円を超えたということは承知をしております。

労働者の皆様方にとりましては、物価高が続く中、目安額を上回る最低賃金の引き上げは歓迎するところであるというふうに考えております。

一方で、この最低賃金の大幅な引き上げ、これは中小企業・小規模事業者に与える影響が非常に大きく、効力発生の日が12月23日と、例年になく遅い時期となりましたことも、企業側の準備期間を考慮したものであると考えております。

そのため、県としましては、引き続き県内事業者に対して生産性向上や価格転嫁対策、販路開拓、新事業展開などの支援を行ってまいります。

合わせまして、最低賃金の地域間格差は最大で212円から203円まで縮小しました。縮小しましたが、依然として大きいものがありまして、地方における人材確保を阻害する要因となっております。賃上げしやすい環境づくりの推進に向けて、政府に対し更なる支援の充実や、最低賃金のランク制度を廃止して最終形としては全国一律の適用を行うよう、提案をしております。今後も機会を捉えて政府へ働きかけてまいりたいと考えております。

記者

ありがとうございます。

今、知事からお話しありましたが、やっぱり使用者側としては、これだけ賃金が上がるということで、価格転嫁につなげられず経営圧迫になりかねないというふうな不安の声が聞かれました。国をはじめとした行政に対して、何らかの賃上げをした企業に対する財政的支援というものを求めたいというふうな声もありますが、県としては、そのような財政的な支援というのは、今後何かお考えはありますでしょうか。

知事

はい。企業が賃金を引き上げ、それを持続するためには、その原資を確保する必要があります。そのため県ではこれまでも、生産性向上や価格転嫁対策などを実施して、県内事業者を支援してきました。そして、同時に政府へもさらなる支援の充実について提案をしてきているところであります。

政府は「経済財政運営と改革の基本方針」いわゆる「骨太の方針2025」におきまして、目安額を超える最低賃金の引き上げが行われた場合には、交付金などを活用した都道府県の様々な取組みを十分に後押しするとしております。

県としましては、政府の動きなど情報収集をしながら、どのような支援ができるのかを検討してまいりたいと考えております。

記者

ありがとうございます。

もう1点、すいません。今度はさくらんぼですが、今年の山形県のさくらんぼの収穫量です

が、8,500トン程度の見通しということで、これは平成以降で最低の収穫量という残念な結果となりました。

2年連続での不作ということで、現場からは、もうさくらんぼの栽培をやめようかというふうな声も出ているということで、「さくらんぼ県」の存続というものが危ぶまれるような状況になっているかというふうに受け止めています。

今回のこの、収穫量の2年連続過去最低の不作ということについて、まず知事としてはどういうふうに受け止めていらっしゃるのでしょうか。

知事

はい。今年のさくらんぼですけれども、8,500トン程度になるとの見通しが示され、収穫量としては、平成以降で最も少なくなるということとなります。大変重く受け止めております。

今年の減収の要因は、主に開花期の天候不順による結実不良と、収穫直前の高温による裂果、実が裂けるという裂果でありました。昨年に続いての作柄不良は生産者にとってはもちろん、さくらんぼに携わる多くの関係者の皆さんも大変ご苦勞をされたものと思います。

こういった状況が続けば、山形県のさくらんぼへの信頼が揺らいでしまうことも懸念されます。それで、9月8日には、今後のさくらんぼ産地をどのようにしていくべきか、生産者やJAグループ、産地市場、主産地の市・町と御議論をいただいたところであります。さくらんぼ県として、しっかりと対策を進め、本県がこの先も日本一のさくらんぼ産地であり続けられるよう、生産者や関係者の皆さまとともに力を合わせて全力で取り組んでまいりたいと考えております。

記者

ありがとうございます。

その8日の産地再生会議の中でも出ましたが、「佐藤錦」がとりわけ不順ということで、これからの気候変動を考えると、佐藤錦からの品種転換というものをもっと考えていかなければならないというふうな意見も出ました。そのためには、「紅秀峰」とか「やまがた紅王」のPRをもっとすべきだというふうな意見も出ました。実際には山形県外の消費者から見ると、「さくらんぼ＝佐藤錦」というふうな見方が大方を占めていると思います。いかに紅秀峰や、やまがた紅王といった、佐藤錦以外の品種を周知するかというのが、これからの課題の一つだと思いますが、そのあたりはどういうふうに展開されようというお考えでしょうか。

知事

はい。そうですね、本当に大きな問題だと思っています。昨年のさくらんぼの作柄不良を考えてみますと、高温の影響で双子果や障害果が発生したということでありまして、今年は先ほど申し上げたように開花期の天候不順による結実不良が主な要因となってございます。こういったことで気候変動に負けず、さくらんぼを安定して生産するということが喫緊の課

題と捉えております。

それで具体的な対応として、現時点ですと、1つ目には、結実不良対策ということでミツバチや受粉樹の導入、2点目として高温への対策ですけれども、遮光資材や散水施設などの資材設備の導入を進めるということ、3点目には、今記者さんがおっしゃったように生産が不安定な「佐藤錦」から比較的高温に強い「やまがた紅王」や「紅秀峰」などへの品種転換を進めてリスク分散を図る、こういったことが考えられます。安定生産に向けて努めてまいりたいというふうに考えております。

こうした取組みによりまして、生産者の皆さまが希望を持って生産を続けられるよう、市町村や関係団体の皆様と連携しながら、気象変動に負けない「さくらんぼ産地づくり」にしっかりと取り組んでまいりたいというふうに考えております。PRも含めてですね。

記者

おはようございます。山形新聞の稲村です。

バレーボールのチーム「アランマーレ（山形）」の関係でお尋ねしたいと思います。

アリーナの確保が難しい状況で、来シーズンということですが、酒田からの本拠地撤退の見通しとなっている状況にあるかと思います。これに関する認識とですね、現段階での知事の受止めがあれば教えていただければと思います。

知事

はい。報道については承知をしておりますが、本日のSVリーグの理事会に付議されるものでありまして、現時点ではコメントを申し上げる立場にはないものと考えております。

「アランマーレ山形」は、2015年から酒田市を拠点に活動を開始されました。これまでの10年間に渡る県内での活躍は、子どもたちをはじめ、多くの県民の皆様の誇りを育み、地域の活性化につながっているというふうに考えております。

報道の内容が事実でありましたら、これまでの県内での活躍を考えると、非常に残念であります。

記者

仮定の話にはなるかもしれないんですけれども、これはやっぱりいろいろ人口減少社会の中ですと、こういったスポーツチームというのは地域の活力という意味で非常に貴重な存在かと思います。県庁の入口のほうにもいろいろ展示品とかを置いてPRしているかと思いますが、今後になるかと思いますが、何か県としての対応も場合によっては考えていくということにはなるのでしょうか。

知事

そうですね、やはりプロスポーツチームは本県には3つあるというふうに常々申し上げてき

ましたし、サッカー、バスケット、バレー、それぞれ多くの皆様から愛されて、非常に地域活性化にも貢献していただいているというふうに思っておりますので、本当にこのたびのことが事実であれば、大変残念だというふうに思います。

県としてというようなことはなかなか難しいですけども、例えば代表的な例がサッカーであります。「モンテディオ山形」はですね、基礎自治体である天童市が応援するというようなことで、これからスタジアムが建設されようとしております。市町村がですね、しっかりと支えるというようなことでありますと、県もまたそれを支援するというような立場になろうかと思えます。この地域の活性化ということで、大いにですね、県としても市町村を応援するというような形を取れるかと思えます。やっぱりプロスポーツチームでありますので、直接県が、というのはなかなか大変難しいのかなというふうに思っておりますが、県民の皆様が本当にスポーツで元気づけられ、ウェルビーイングにもやはり繋がるというふうに思いますので、これからですね、アランマーレが秋田へ行くというようなことがはっきりといいですか、仮定のことはなかなか難しいですけども、そういったことが事実になっていけばですね、県がどういうことができるのかということはこれから検討していきたいというふうに思います。

できる限り山形でも試合を行っていただくなり、やはりユースですかね、山形県内にもバレーボールを愛する人たちがたくさんおりますので、そういった人たちとの繋がりというものをしっかり持つていただくというようなことが大事なかなというふうに思っております。

記者

読売新聞の中戸と申します。おはようございます。

先日の立憲民主党の繰上げ当選の件について伺いたいと思います。馬場（雄基）議員が福島市長選に出られるということで辞職なさいまして、代わりに本県から原田（^{まさひろ}和広）議員が繰上げ当選する見通しというふうになっております。これで本県の議員が6人から7人になるということで、議員が増えれば県民の声を中央に伝えやすくなるだとか、そういったメリットもあるとは考えますけれども、知事としてはこの繰上げ当選、まだ見込みですけれども、受止めというところをお願いいたします。

知事

はい。まだ見通しということであって、正式決定ではありませんけども、本県選出の国会議員が増えるということは大変喜ばしいことであるというふうに思います。

今、記者さんがおっしゃったとおりですね、山形県民、地方の声をしっかりと国政の場に届ける太いパイプ役を担っていただくことを心から期待しております。大活躍をお祈りしたいと思いますので、決定になったらまたお祝いを申し上げたいというふうに思います。

記者

補足的な質問になってしまうんですが、具体的にどういう、まだ決まっていはいないんですけれども、どういう役割を期待するかというところで、例えばこういうものをアピールしていただきたいとか、今しがたいろいろ、スポーツだったり、地域振興だったり、最低賃金、農業、いろんな話題が記者会見でも出ましたけれども、知事としてはどういう役割を期待していращやいますでしょうか。

知事

そうですね、やはり県民の声をつぶさに聞いて、また状況を把握していただいて、県とも意見交換をしながら、しっかりと地方の声を政府に届けていただきたいと思います。

県議会議員もお務めになった経験がありますので、本当に博識な方でありまして、様々得意分野もあったかと思っておりますので、大活躍を期待しているところであります。

記者

NHKの内藤と申します。よろしくお願いします。

石破総理大臣がですね、アメリカの関税措置を巡る対応に区切りがついたなどとして、今月7日に総理大臣を辞任する意向を表明しました。すでにコメントをいただいているところではあるんですけれども、これについての受止めと、新しい政権がこれから首班指名選挙を経て誕生することになるわけなんですけれども、新しい政権に求めたいことというのを教えていただければと思います。

知事

はい。9月8日にコメントは出しているんですけれども、石破首相が9月7日に辞任を表明されました。これまで石破首相が非常に重視されてきた地方創生をはじめ、米の価格高騰対策や米国との関税措置への対応など、国民のために取り組んでいただきました。少数与党となって政権運営が非常に難しい中、様々な重要課題の対応に御尽力いただきました。

特に、私の立場で申し上げますと、地方創生に強い意欲を示されていたということでありますので、次の政権にもぜひその地方創生ということを引き継いでいただいでですね、しっかりと方針を「地方創生」ということで取り組んでいただきたいというふうに思っております。

やはり地方、47都道府県で日本が構成されておりますので、地方の意見がしっかりと反映される、そういう国政になっていただきたいというふうに思っています。

記者

河北新報の八木と申します。

先ほどのNHKさんの質問と関連するんですけれども、10月4日に自民党の新しい新総裁の

選挙が行われるという、そういう流れになってきているかと思うんですが、先ほど知事も、地方創生、次の政権にもそういうものを求めたいという、そういうお話があったかと思うんですが、新たな総裁が決まった場合、どういった方を求めたいと言いますか、どういった方になってほしいみたいな、そういうお考えというのも現時点でお有りだったらお伺いしたいなというふうに思うんですけれども、いかがでしょうか。

知事

はい。そうですね、今申し上げたのが強い期待でありますけれども、やはり我が国全体を考えてみますと、長引く物価高騰でございましたり、人口減少・少子高齢化、災害の頻発・激甚化、災害対策ですね、すでにもう災害が発生しているところのその災害対策、といったことなど、本当に課題が山積しております。

新たにリーダーとなられる方には、地方の声や意見に正面からしっかりと向き合っていて、国政に反映していただくということを強く期待したいというふうに思います。